

新琵琶湖博物館創造 第一期実施設計(案)概要版
(C展示室・水族展示・建築設備)

平成 27 年(2015年) 3月

滋賀県

目次

1. C展示室	
(1) 新展示のねらいと主な展示内容	・ ・ ・ ・ ・ 1
(2) ゾーニング図	・ ・ ・ ・ ・ 3
(3) 鳥瞰図	・ ・ ・ ・ ・ 4
(4) 詳細図面およびイメージ図	・ ・ ・ ・ ・ 5
2. 水族展示	
(1) 新展示のねらいと主な展示内容	・ ・ ・ ・ ・ 19
(2) ゾーニング図	・ ・ ・ ・ ・ 21
(3) 平面図	・ ・ ・ ・ ・ 22
(4) 詳細図面およびイメージ図	・ ・ ・ ・ ・ 23
3. 建築・設備	
(1) 建築改修計画	・ ・ ・ ・ ・ 38
(2) 設備改修計画	・ ・ ・ ・ ・ 39
4. スケジュール、事業規模および目標来館者数	・ ・ ・ ・ ・ 40

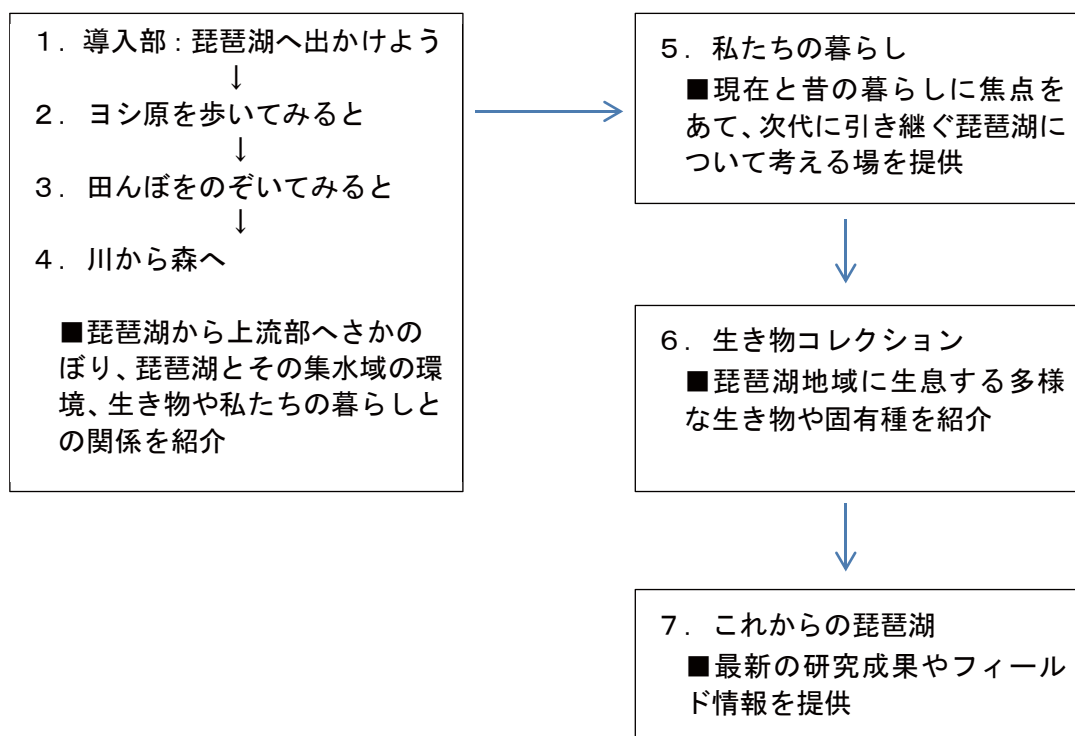
(1)新展示のねらいと主な展示内容

【テーマ】琵琶湖地域のいま ～身の回りの環境と暮らし再発見～

【新展示のねらいと全体構成】

琵琶湖岸から森林までの身近な景観を入りに、関連するトピックと環境・人間・生き物の関係性をわかりやすく示し、身の回りの世界の中に潜むおもしろさを知ってもらい、博物館の屋外展示や交流事業とつなぎ、魅力あるフィールドへ誘います。

【展示の流れ】



【各コーナー展示のねらい】

①琵琶湖へ出かけよう

琵琶湖の全体像を紹介する導入部分となります。琵琶湖をほとんど知らない人には特徴的な景観を中心にその魅力を伝え、フィールドへの誘いや観光への入り口の役割を果たします。琵琶湖とその環境について深く知りたい人には、理解の手助けとなる様々な情報をわかりやすく提供します。

②ヨシ原を歩いてみると

湖辺域の代表的な景観としてヨシ原を取り上げ、ヨシ原の中に分け入った時に、見えてくる世界を臨場感あふれるジオラマ（情景模型）で紹介します。陸域と水域の連続した移行帯が生き物にとって重要であることや湖辺の大湿地帯の変容と私たちの暮らしとの関係を紹介し、ヨシ原と来館者の暮らしとの間にある「つながり」を伝えます。

③田んぼをのぞいてみると

滋賀県の代表的な景観の一つである田んぼの多様な生き物とそれを育んできた独特の環境や人とのかかわりを紹介します。6月上旬の田んぼに無数の生物がうごめいている状態を20倍スケールのジオラマで表現します。また、近年の農業の変化と生き物との関係や「魚のゆりかご水田」について紹介し、これからの人と水田の関係を考える材料を提供します。

④川から森へ

川と森を中心とした琵琶湖地域の中・上流の環境とそこに住む生き物と人との関わりを紹介します。あわせて、琵琶湖集水域における治水・利水のための取り組みと人の生活との関わりを紹介します。また、カワウ、ニホンジカなどの生き物を通して、川と森、生き物と人との複雑な関係性を伝えます。

⑤私たちの暮らし

暮らしに必要な燃料などの資源を身の回りの自然から得て、また自然に還すといった、昭和30年代の物質循環や資源利用の仕組みや自然とのつきあいをわかりやすく紹介します。現在とかつての暮らしを対照的にみる展示を通して、次世代へ引き継ぐ自然と、未来の琵琶湖へつなぐこれからの私たちの暮らしについて考えるきっかけを提供します。

⑥生き物コレクション

琵琶湖とその集水域に生息する生き物の実物標本を展示し、美しさと多様さを一目で感じられる迫力ある空間を演出します。また、固有種の展示コーナーを設け、琵琶湖地域の特徴と独自性を際立たせ、何度訪れても新たな発見が得られるよう、一部を可変性のあるトピック展示とし、生き物の変異や美しい色彩や面白い形の生き物などを紹介します。

⑦これからの琵琶湖

来館者が博物館の研究成果やフィールドの最新の情報を入手できるコーナーです。研究成果への質問、感想や意見など、ICT（情報通信技術）の活用などにより、双方向のやり取りが可能な展示となります。

